

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-69205

(43)公開日 平成5年(1993)9月21日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
E 0 4 B	1/41	5 0 2 H	7521-2E	
	1/16	E	7121-2E	
E 0 4 G	9/10	1 0 4	7040-2E	

審査請求 有 (全 2 頁)

(21)出願番号	実願平4-34035
(62)分割の表示	実願昭58-40125の分割
(22)出願日	昭和58年(1983)3月18日

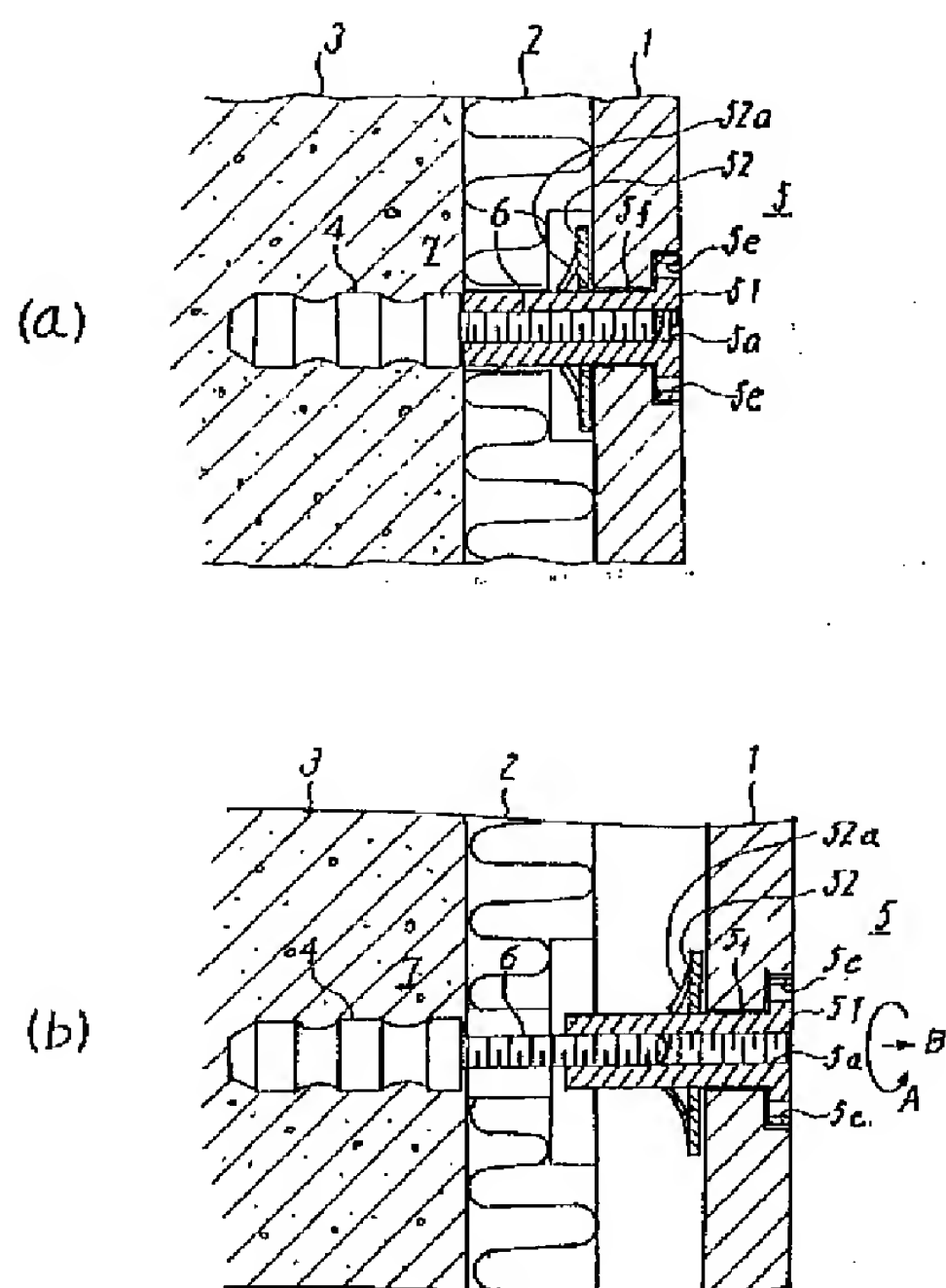
(71)出願人	000100517
	アースニクス株式会社
	東京都千代田区外神田1丁目9番9号 内田ビル
(72)考案者	内田 宏之
	栃木県足利市本城3丁目2074番地
(74)代理人	宮下 恭一

(54)【考案の名称】 パネル材取付金具

(57)【要約】

【目的】 コンクリート型枠として用いたパネル材1をそのまま壁下地として用いること、およびコンクリート打設時のはらみによるパネル材1の不陸を、パネル材1の表面側から簡単に調達できること。

【構成】 パネル材1に回転可能に取り付けられるヘッド部材5と、このヘッド部材5にねじ結合する連結部6と、これにつづくアンカ部4とを有するアンカ部材7とを備え、コンクリート型枠となるパネル材にヘッド部材5を取り付けるとともにアンカ部材7をヘッド部材5に取り付けて、打設したコンクリート壁3内にアンカ部4を埋設して固定し、ヘッド部材5をパネル材1の表面側から回転させることでパネル材1の不陸を調整する。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 コンクリート壁に固定されるアンカ部およびこのアンカ部につづいて延在しねじが形成されている連結部で構成されているアンカ部材と、パネル材に回転可能に取り付けられ上記アンカ部材の連結部にねじ結合するヘッド部材とよりなり、このヘッド部材は上記パネル材の表面側から回転可能に構成されてなるパネル材取付金具。

【請求項2】 ヘッド部材はパネル材の厚さより長い首部を有する請求項1記載のパネル材取付金具。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の一実施例の断面図である。

【図2】 本考案の他の実施例の断面図である。

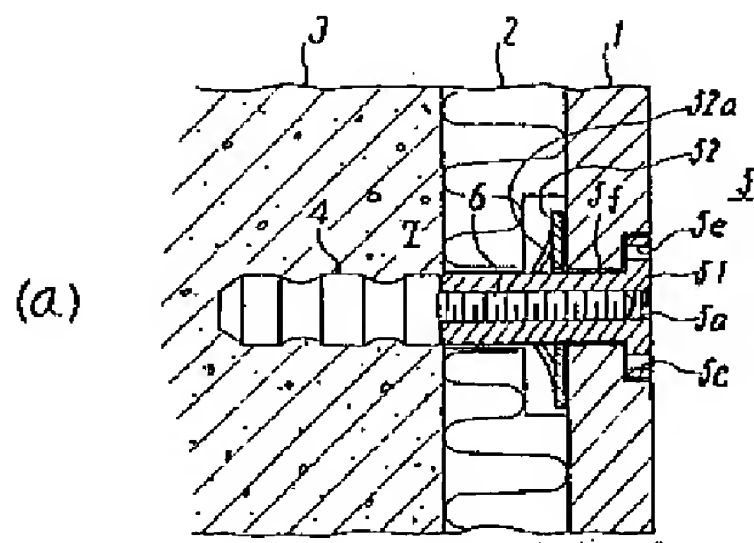
* 【図3】 この実施例の第1、第2ヘッド部材を図2 III-III線側からみた平面図である。

【符号の説明】

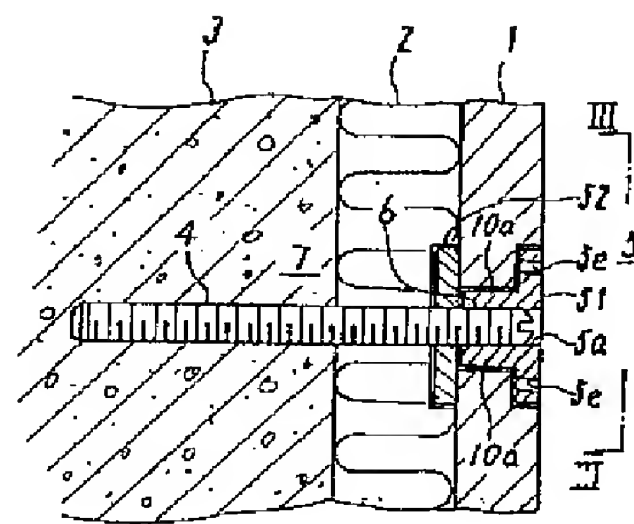
- 1 パネル材
- 2 断熱材
- 3 コンクリート壁
- 4 アンカ部
- 5 ヘッド部材
- 6 連結部
- 10 7 アンカ部材
- 51 第1のヘッド部材
- 52 第2のヘッド部材

*

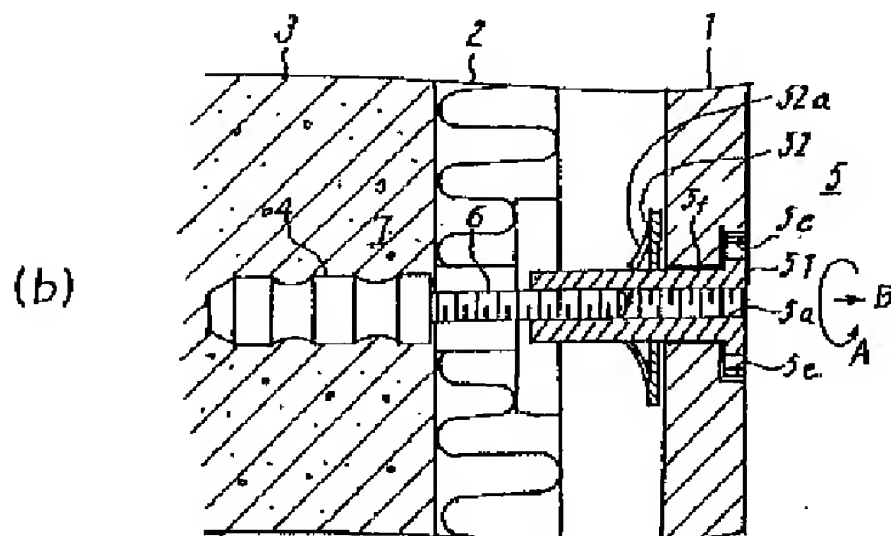
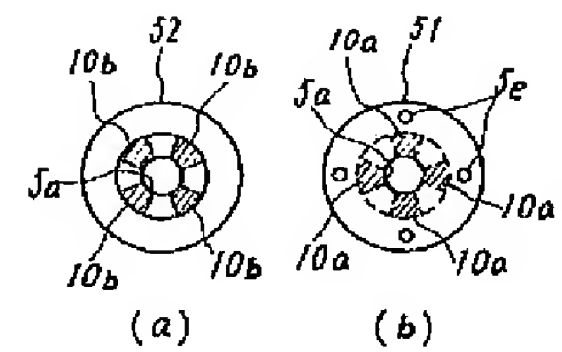
【図1】



【図2】



【図3】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案はコンクリート壁面に下地材、仕上材等（以下、「パネル材」と称す）を取付けるために用いる取付金具に関し、更に詳しくは、上記パネル材をコンクリート壁を打設する際拾型枠として用い、コンクリート打設後にパネル材の表面側からパネル材のコンクリート壁面からの高さを調節し、コンクリートのはらみによるパネル材の不陸を調整しうるようにしたはらみ調節機能を備えたパネル材の取付金具に関する。

【0002】**【従来の技術】**

従来、コンクリート壁面にパネル材を取り付ける際には壁面のはらみによる不陸に合わせて枕木を介在させるなどの方法によりパネル材の平面を出すことが行なわれている。

【0003】

しかしコンクリート壁面のはらみに合わせて枕木等を配設する作業は煩雑であり、多大の作業手間を要するので改善が望まれていた。またパネル材を型枠として用いた場合は、パネル材の簡易な不陸調整手段がないので、仕上材を拾型枠に用いるときははらみの発生を抑止するため多くの端太材を配設するなどの措置を必要とした。

【0004】**【考案が解決しようとする課題】**

本考案は従来のかかる難点の解消を目的としてなされたもので、仕上材をコンクリート型枠のパネル材として用い、コンクリート打設後にその仕上材のはらみによる不陸を当該仕上材の表面側から容易に調整できるパネル材取付金具を得ることを目的とする。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

本考案に係るパネル材取付金具は、コンクリート壁内に固定されるアンカ部お

よびこのアンカ部につづいて延在しねじが形成されている連結部で構成されているアンカ部材と、パネル材に回転可能に取り付けられ上記アンカ部材の連結部にねじ結合するヘッド部材とよりなり、このヘッド部材を上記パネル材の表面側から回転可能に構成したものである。

【0006】

【作用】

パネル材にヘッド部材を取り付け、このヘッド部材にアンカ部材を取り付けた状態でもってコンクリート型枠を組み立てる。このコンクリート型枠内にコンクリートを打設するとアンカ部材のアンカ部がコンクリート内に埋め込まれて固定される。次に端太材等を取り除いたのちパネル材に取り付けているヘッド部材を回転させればパネル材はヘッド部材に従って進退するので、パネル材の不陸を調整することができる。

【0007】

【実施例】

図1は本考案の一実施例の断面図で、図1(a)はコンクリート打設時の断面図、図1(b)は不陸修正後の断面図である。図において、1は仕上材であるパネル材、2は発泡ポリエチレンフォームなどのコンクリートに付着性の悪い断熱材、3は打設したコンクリート、7はアンカ部材で、アンカ部材4と右ねじに形成されている連結部6とで構成されている。

【0008】

5はパネル材1に回転可能に取付けられるヘッド部材で、第1のヘッド部材51を首長の座付ナット状に形成するとともに、第2のヘッド部材52を爪付座金で構成したもので、パネル材1に第1のヘッド部材51を挿入し、その首部5fに第2のヘッド部材52を圧入してその爪52aで係止させてパネル材1にヘッド部材5を取り付ける。5eは第1のヘッド部材51の頭部に設けたドライバ穴、でヘッド部材5をパネル材1の表面側からドライバで回転させるためのものである。

【0009】

つぎにこの取付金具7の使用方法を説明する。まず、パネル材1にパネル材取

付金具を取り付ける位置に下穴をあけ、アンカ部材7の連結部6に第1のヘッド部材51をいっぱいねじ込んだものを挿入し、第2のヘッド部材をアンカ部材7側から圧入してパネル材1に取り付ける。つぎに、下穴をあけた断熱材2をアンカ部材7側から挿入してパネル材1と重ね合わせ、このパネル材1と断熱材2を重ね合わせたものでコンクリート型枠を組立てる。この状態では型枠内にアンカ部4が突出している。つぎに型枠内にコンクリートを打設する。このコンクリートが硬化すると、アンカ部4は図1(a)に示すようにコンクリート3内に埋設されて固定される。従ってパネル材1および断熱材2は、連結部6およびヘッド部材によってコンクリート壁3に取付けられる。

【0010】

次に、拾型枠の端太材等を取り去ったのちパネル材1の不陸を調節する。この調節は、ドライバ穴5eにドライバを差込み、ヘッド部材5を回転させることにより行なう。即ちこの例ではヘッド部材5を第1図(b)に示すように左に回転させる(矢印A方向)と、アンカ部4とヘッド部材5の間隔が広がり、これにつれてパネル材1は矢印B方向に変位する。従って、パネル材1の不陸が修正される位置までヘッド部材5を回転させる調節に必要な取付金具について施すことによりパネル材1全体の不陸の修正することができる。

【0011】

このように本考案に係るパネル材取付金具は、拾型枠として用いたパネル材1と断熱材2をコンクリート壁3に取付けるとともに、コンクリート壁3のはらみによるパネル材1の不陸を簡単な調節作業で修正することができる。

【0012】

図2は本考案の他の実施例の断面図で、アンカ部4と連結部6とを一体にした一本のねじ棒でアンカ部材7を構成するとともに、ヘッド部材5をプラスチック成形品で構成したもので、第1、第2のヘッド部材51、52は図3(a)、(b)に示すように、それぞれ互いに嵌り合う脚部10a、10bを有し、パネル材1を挟持する形で脚部10a、10bを嵌め合わせてその部分で接着して一体に締結し、プラスチック材の可塑性を利用してアンカ部材7をねじ込むことによりめねじ5aを形成させたものである。

【0013】

この実施例によれば、ヘッド部材5およびアンカ部材7の構成が簡易で安価なものとなる利点がある。

【0014】**【考案の効果】**

本考案によれば、コンクリート壁を打設したとき、そのコンクリート壁内に埋設されてアンカとなるアンカ部およびこのアンカ部につづいてねじが形成されている連結部を有するアンカ部材と、上記コンクリート壁の打設に用いるパネル材に回転可能に取り付けられ、上記連結部とねじ結合するヘッド部材とを備えたパネル取付金具であるから、コンクリート型枠として用いたパネル材をそのコンクリート壁面にそのまま壁下地に転用できるとともに、はらみによるパネル材の不陸を、当該パネル材の表面側からヘッド部材を回転させるという簡単な作業で調整できる効果が得られる。